

戦略計画 14

練馬のみどりを未来へつなぐ

● 5年後（平成35年度末）の目標

練馬のみどりに満足している区民の割合80%を目指し、みどりのネットワーク形成と区民とともにみどりを守り育てる仕組みづくりを推進

● 現状・課題

区の魅力は、みどりの豊かさと大都市の利便性が両立している点です。公園や街路樹の整備、樹林地の保全などの取組を進めてきた結果、公共のみどりは増えました。一方、区のみどりの約75%を占める民有地のみどりは、税負担や相続などにより減少傾向にあります。

公共のみどりについては、引き続き、みどりのネットワークの拠点となる公園や軸となるみどり豊かな幹線道路の整備等を積極的に進めていく必要があります。

民有地のみどりについては、これまで以上に地域全体で地域のみどりを支えていく流れをつくるのが求められています。区民が心地よく、生活に必要なと感じるみどりを増やし、みどりに関わりやすい仕組みづくりを進めることで、区民と区がともにみどりを支え、より豊かなみどりを生み出す、区民協働の流れ「みどりのムーブメント」につなげていく必要があります。

● 5か年（平成31～35年度）の取組

1 みどりのネットワークの形成

（1）みどりのネットワークの拠点となる大規模な公園づくり

- ① 区内には、石神井公園、大泉中央公園、光が丘公園、城北中央公園などの大規模公園のほか、みどりの拠点となる公園や樹林地が点在しています。みどりの拠点づくりを進める長期プロジェクトとして、稲荷山公園は「武蔵野の面影」、大泉井頭公園は「水辺空間の創出」をテーマに、公園の拡張・整備に着手します。また、四季の香ローズガーデン、大泉学園町希望が丘公園や石神井松の風文化公園の拡張など、拠点となる大規模で特色ある公園を整備します。これらの拠点をみどり豊かな幹線道路や河川がつなぐ、みどりのネットワーク形成を進めます。
- ② 練馬城址公園は、整備計画に区の求める水とみどりやにぎわい、防災の拠点としての機能が反映されるように、引き続き整備主体である東京都と調整します。

(2) 暮らしに潤いをもたらす身近な公園づくり

(仮称) 上石神井三丁目公園の新設や豊玉中いっちょうめ公園の改修など、毎日の暮らしに潤いをもたらす身近な公園を積極的に整備します。

公園の整備にあたっては、計画段階から多様な手法により区民参加を進め、整備内容を検討します。区民参加による計画づくりを通して、活発な区民の利活用や区民による公園の管理運営へつなげ、地域のコミュニティ醸成の場となる公園を目指します。

(3) みどりのネットワークの軸となる幹線道路の整備、河川改修

街路樹や沿道の樹林地等を活かしたみどり豊かな幹線道路の整備、新たなみどりを創出する河川改修により、みどりの軸を形成します。

(4) 重要な樹林地の保全

屋敷林等の樹林地は、練馬の原風景といえる景観であり、豊かな自然が守られた重要なみどりです。特に希少な樹林地は、所有者との合意形成を図り、都市計画緑地として確保を進めます。

(5) 地域ぐるみでの緑化の推進

沿道や街区単位での緑化を進めるため、専門スタッフによる相談体制を充実し、みどりの協定制度や花壇づくりの支援制度を活用して、みどりの街並みを広げます。

2 みどりを育むムーブメントの輪を広げる

(1) 個人のみどりを地域で守る仕組みの拡充

テーマ別みどりの区民会議を設置し、個人の庭の手入れや落ち葉清掃など、個人のみどりを地域で守り育てる仕組みづくりを進め、区民協働の取組を広げます。

(2) 公園や憩いの森の区民管理の拡充

様々な機会をとらえて、区民による公園管理や花壇管理を拡大し、地域の庭としての公園への愛着を育むとともに、地域のニーズに応じた利活用を実現します。自然観察会や育成体験会などの事業を契機として、区民による憩いの森の自主管理へつなげます。

(3) みどりを守り育てる人材や団体の育成

パワーアップカレッジねりまのリニューアルに伴い、みどり分野を開設し、みどりを守り育てる人材や団体を育成します。卒業後は地域で活躍できるよう、活動団体等とのマッチングを進めるとともに、区民や団体間の交流を促し、活動の輪を広げていきます。

(4) 練馬区みどりを育む基金のリニューアル

四季の香ローズガーデンの拡張工事など、複数の事業から応援したいメニューを選択できる基金にリニューアルします。また、寄付された区民には植樹活動に参加をしてもらうなど、みどりと積極的に関わることができる仕組みをつくります。